

道民カレッジ連携講座

文化財講演・北海道 150 年

北海道庁の移民政策

中央道路と駅通、連絡船、石北線について



国鉄最初の連絡船・比羅夫丸

当時の奥地
開発の実際を
多面的に語る。
貴重な資料
集を配布!!

岩村通俊が初代の北海道庁長官に就くと、それまでの直接保護政策は誘導保護へと転換され、植民地の選定や水産調査、鉱物調査のほか、道路や港湾、鉄道の整備などに重きを置いて、移住民の勧誘と開拓指導を中心に様々な施策が具現化されて行く。当時の上川開発、林業の勃興など、植民の実際を解説し、駅通や連絡船の歴史を語り、各地で起こった鉄道敷設運動のうち、石北線と渚滑線を例に挙げる。

○とき／2018年9月7日(金) 午後2時～4時まで

○ところ／かでの2・7ビル710号室 札幌市中央区北2条西7丁目

○受講料／非会員700円 保護協会員無料

○申込み／(一財)北海道文化財保護協会 電話・Fax011-271-4220



□山田雅也 北海道文化財保護協会員、北海道史研究協議会員、北海道産業考古学会員、日本民俗建築学会員ほか、紋別市役所。美唄の炭住に生まれ、文明開化の函館や城下町の松前に育つ。函館山要塞に潜り、潜水艇くろしお号によじ登り、松前藩墓所をかけ巡った。主な研究テーマは幕末から戦前・戦中にかけての北海道の殖産、拓地植民の歴史。「北海道の太子講」、「北海道の奉安殿」、「陶製の二宮尊徳像」、「北見ハッカの濫觴」、「北海道缶詰史」などがある。

展示会 : お宝に見る、この北海道150年

とき : 9/4～14

ところ : かでの2・7ビル9F

主催 : (一財)北海道文化財保護協会

資料提供 : 山田雅也



拓銀のハッピー